

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 ひびきの 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

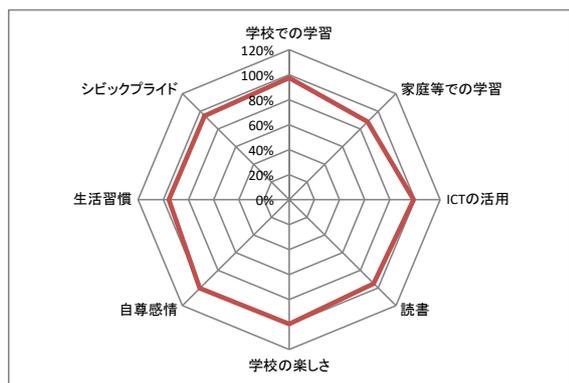
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	大多数の項目の平均正答率は福岡県平均であり、全国平均を上回った。特に前年度の課題であった「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」の平均点は他項目に比べて高かった。文章の種類の見分け方や謙譲語の使い方、思考力・判断力・表現力を測る「書くこと」の領域に課題が見られた。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題 ・原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかを問う問題	
	努力が必要な問題	・文章の種類とその特徴について理解しているかを問う問題 ・日常よく使われる敬語を理解しているかどうかを問う問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	ほとんどの項目の平均正答率は全国平均を下回った。前年度からの課題であった「図形」に関しては引き続き、福岡県平均を上回ることができなかった。図形の意味や性質について理解することはできているが、具体的な数値が示されていない場面において、判断するのに必要な情報を見だし、その理由を記述することに課題が見られた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断する問題	
	努力が必要な問題	・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題【図形】 ・二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる問題【データ分析】	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

「学校での学習」に関する数値は、肯定的な回答が全国平均と同程度であった。しかし「家庭等での学習」の項目である「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の問いに対して肯定的な回答をした児童が全国平均を著しく下回っていた。主体的な深い学びや個別最適な学びが、児童の自己有用感に影響を与えている可能性があるため、学校全体で家庭の学習に繋がる支援を進めていく必要がある。

「自尊感情」、「学校の楽しさ」、「ICTの活用」については肯定的な回答が多いことに対し、「生活習慣」や「今住んでいる地域の行事に参加している」（シビックプライド）などの質問の肯定的回答率は全国平均を下回った。今後は、郷土の先人や伝統文化のよさにふれる地域行事を紹介したり、北九州道徳郷土資料を活用したりして啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では児童が考えをまとめる際に、単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして、文章を読み書きできるように指導をしていく。必要に応じて授業の終末において振り返る時間を設定し、新しく理解したことを学級で共有できるようにする。

算数科の単元末の「たしかめよう」の学習の際に、学習頻度の少ない内容を復習する機会を設ける。情報量が少ない問題文を多面的に捉え、読み取ることができる力を身に付ける活動を増やす。図形の意味や性質、特徴を捉えたり、考察したりしたことを筋道を立てて、どのように考えたのかを明らかにして、他者に伝えることができるように指導していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

授業学習の内容を学校外でも学ぶことができるようICTを活用した学習アプリや個に応じた学習の支援を継続していく。また学年毎の家庭学習時間の目安を学校通信等で周知したり、よい自主学習のノートの例を教室等に掲示したりし、家庭学習の大切さを伝えていく。

「規則正しい就寝時間や朝食摂取」などの基本的な生活習慣の定着に関わる肯定的回答が高い。携帯電話やスマートフォンに触れる時間を家庭等で話し合うことで、家庭学習や読書の時間がより充実するよう通信等で児童・保護者へ啓発していく。